

日 ASEAN におけるアジア DX 促進事業(第一回)
新型コロナウイルス流行下のマレーシアにおけるパーソナルヘルスレコードを基盤とした
オンライン診療プラットフォームの構築実証事業
株式会社アルム

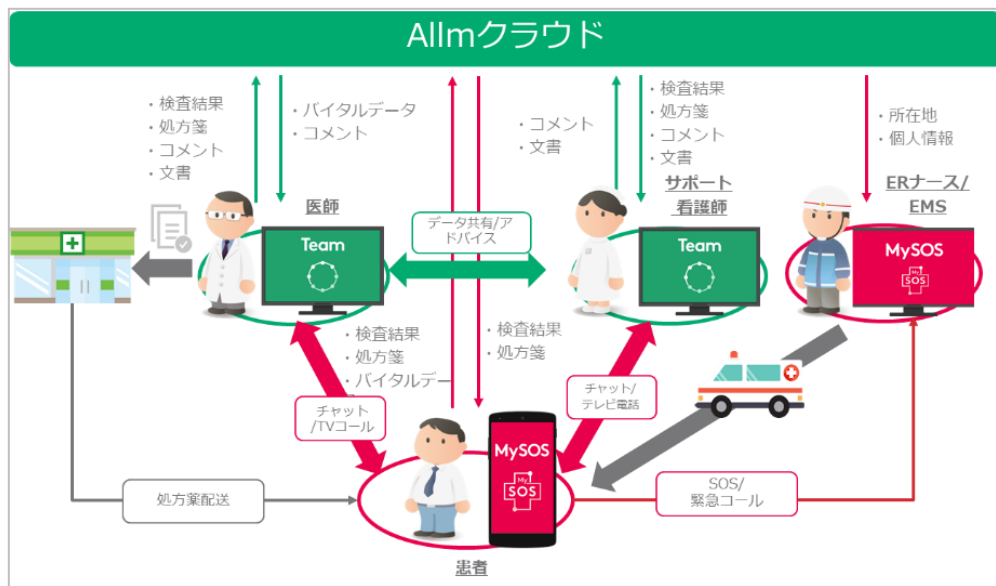
1. 本事業の背景及び目的

本事業ではマレーシアにおいて、現地医療機関である Sunway Medical Center (以降、SMC) と、その運営元であり、東南アジア地域において都市開発を手掛ける SUNWAY 社と協力し、新型コロナウイルスの流行で医療機関へのアクセスが限定される環境下においても、患者/住民が適切な医療サービスを継続して享受できるようにするための「オンライン診療プラットフォーム」を構築し、マレーシアの医療環境の向上と医療機関の収益回復に貢献することを目指した。

マレーシアは現在、東南アジアで最も肥満率が高い国となっている。それに伴い、生活習慣病患者の増加が社会問題となっている。糖尿病を含む生活習慣病は、その多くが生活管理によって改善しうるものであり、継続的な通院が重要になる。一方でこれら疾患は自覚症状が少なく、初期段階では日常生活にも支障がないため医療機関での治療離脱率が高く、重症化してから再度通院を開始しても、多くの合併症を併発してしまうケースが多い。そのため、本来であれば生活習慣病患者の増加に伴い、医療機関へ定期通院する患者は日に日に増えていくはずである。しかし新型コロナウイルスの影響で行動制限等もあり、本来受けるべき診療が受けられていない状況である。これは潜在的に重症患者が増加していること意味しており、マレーシアにおいて大きな問題となっている。また、医療機関にとっては急激な収益減となったことで経営難に陥る施設も出始め、もともと医療資源不足が喫緊の課題であるマレーシアにおいては特に深刻な事態となっている。

2. 本事業の概要

オンライン診療プラットフォームは、弊社が提供するパーソナル・ヘルス・レコード (PHR) のスマートフォンアプリの「MySOS」と、地域での患者管理を目的とした多職種連携プラットフォームの「Team」を組み合わせることで構築した。具体的には、A)患者オンラインサポートチームによるモニタリングとフォローアップ、B)医師によるオンライン診療、C)処方薬配送、D)緊急時の SOS レスポンスの 4 つの要素から成り立っている。本事業期間中には①システム構築と②事業化を見据えた市場調査を実施した。システム構築においては SMC の専門医や看護師と協議し、サービスのワークフローや疾患特有のニーズをくみ取り、現地に合った形での構築を実現することができた。本プラットフォームの運営はまず臨床研究として実施することを予定しており、病院内の倫理審査委員会からの承認が得られ次第、運用を開始する。また、市場調査からは、本事業の現地ニーズとの一致を改めて確認することができた。



3. 成果及び考察

本事業においてはマレーシアのニーズを考慮して生活習慣病を対象疾患として選定し、頻繁に通院できない新型コロナウイルス流行下でも専門医療スタッフから密なサポートを享受することが可能となるプラットフォーム開発を実施した。新型コロナウイルスのパンデミック下におけるオンラインサポートのニーズについては現在世界全体で急増している。このような広範な地域でのニーズを満たすソリューションを本事業においてマレーシア発で構築できたことは、大変大きな成果であると考えられる。また、本取組みは現在、SUNWAY グループが推し進めている SDGsに貢献することを目指したイニシアチブのミッションに合致しているということで、本取組みをグループ全体の新たな事業としてプレスリリースの準備を開始している。SUNWAY グループは不動産開発事業において特に街づくりに注力している企業であり、住民の健康管理についての新たなソリューションとしてシナジーを認められ始めたことも、本事業の成果である。

4. 今後の活動

本事業で構築しているシステムやサービスは評価されている一方で、臨床面での有効性については次年度以降に SMC との共同研究として検証していくことになる。そのためまずは現地と密に連携しながらスムーズな運営が可能となるよう、また、SMC に通院している生活習慣病患者に対し、より良い医療が提供できるようシステム面からサポートし、1 年後に明確な優位性を証明した上で、サービスとしての実運用に移行できるよう準備を進めていく。研究終了後は以下 3 つの方法での事業化を目指している。

- (1) SUNWAY グループとのパートナーシップ
- (2) マレーシア内、他の ASEAN 諸国への横展開
- (3) データの 2 次活用と関連産業からのスポンサーシップ